

4. 計画のビジョン，基本方針・目標

(1) 計画のビジョン

自転車活用推進計画の基本的な考え方，盛岡市の課題，自転車の特性等を踏まえ，盛岡市における自転車活用推進計画のビジョンを以下のとおり設定します。

<自転車活用推進計画>

自転車の活用を推進するためには

- 安全，快適な利用環境の実現
- 自転車利用者の利便性を向上
- 自転車の利用が国民一人一人のQOL※の向上につながり，自転車が魅力的なものとなること が重要

<盛岡市総合交通計画>

“自家用車は我慢，歩行者・自転車・公共交通優先の町を目指して”のキャッチフレーズを基に

- 「自動車利用者の自転車を思いやる気持ち」と
- 「自転車を優先した施策の施行」

<盛岡市の課題>

自転車の活用を推進していくためには

- 利用環境整備の促進
- 効果的な交通安全啓発
- 自転車を利用する動機づけ
- 多様な自転車利用を推進するための環境づくり 等が求められる。

<自転車の特性>

自転車の活用を推進していくことによって…

- 渋滞緩和につながる
- 温室効果ガスの排出削減につながる
- 健康増進につながる
- まちの様子に触れる機会が増える

○盛岡市自転車活用推進計画のビジョン
自転車が誰でも安全で快適に利用できる交通手段として
くらしに定着することを目指す。

※Quality of life の略。人生の内容の質や社会的にみた生活の質。どれだけ人間らしい生活を送り，人生に幸福を見出しているか，ということをも尺度として捉える概念。（自転車活用推進計画より引用）

(2) 基本方針及び目標

次に、本計画のビジョンに基づき、分野ごとの基本方針及び目標を以下のとおり設定します。

基本方針1. 自転車が利用しやすい環境整備

【目標】

自転車や歩行者が安全で安心して利用できる自転車走行空間の確保や駐輪場所の確保など、自転車が利用しやすい環境の整備を図る。

基本方針2. 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

【目標】

自転車が車両として守るべきルールの周知やマナー向上を図り、自転車・歩行者・自動車が互いに尊重しあう安全で安心な交通環境を目指す。

基本方針3. 自転車が暮らしの中に定着するための取組み

【目標】

自転車の活用推進に関する取組みの充実を図ることで、自転車が身近な交通手段として暮らしの中に定着することを旨とする。

つぎに、基本方針毎に、盛岡市の課題に対する施策の方向性を整理しました。

項目	現状	課題	施策の方向性
自転車利用状況	通学時の自転車分担率と比較すると、通勤時の分担率は低い。	自転車通勤の啓発活動や、レンタサイクル事業を充実することで、通勤時の自転車利用を促進する必要がある。	<p>○自転車利用環境の整備</p> <p>■自転車走行空間の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車ネットワーク計画に基づき、整備優先度の高い路線から自転車走行空間の整備を進めていく。 自転車や歩行者中心のまちづくりを推進するため、中心市街地の空間再配分や、関連計画と整合を図りながら整備を行うっていく必要がある。 <p>■地域のニーズに応じた駐輪場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> エリアごとのニーズに応じて駐輪場の整備を検討する必要がある。 <p>■放置自転車対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 放置禁止区域の周知、放置自転車の撤去等を継続して実施していく必要がある。 <p>■「自転車通行可」の規制解除の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自転車通行可」の標識の必要性について、関係機関と協議しながら検討する。
	7時～9時の自転車利用者が多く、その目的のほとんどは通勤通学である。	自転車ネットワーク計画に基づき自転車走行空間を整備していく必要がある。	
	通勤通学時間帯に自転車交通量の多いゾーンがある。	現場状況を勘案したうえで、標識の必要性について検討する必要がある。	
	自転車で快適に移動できると思う人の割合は近年横ばいで推移している。	地域のニーズを把握したうえで駐輪場の設置を検討する必要がある。	
	自転車ネットワーク計画における第一段階整備箇所は約25%が整備済である。	関係機関に自転車の配備を呼びかけ、緊急時や業務中の自転車利用を呼びかける必要がある。	
	自転車走行空間が整備された区間に「自転車通行可」の標識がある。	自転車事故頻出箇所の点検を実施し、対策を講じる必要がある。	
	市中心部における駐輪の満足度が低い。	自転車の通行ルールについて、自転車利用者だけでなく、自動車運転者、歩行者にも理解してもらうことが必要である。	
	市・県庁舎内に公用自転車を配備している。	利用マナー向上のための啓発活動を継続、拡充する必要がある。	
	自転車事故が頻出している箇所がある。	引き続き放置自転車対策を行っていく必要がある。	
	通勤通学時間帯の自転車関連事故件数は減少傾向にある。	自転車利用マナー向上のため、自転車利用者だけでなく、自動車運転者、歩行者にも理解してもらうことが必要である。	
交通事故の状況	対自動車との事故が多く、交差点付近で発生している事例が多い。	利用マナー向上のための啓発活動を継続、拡充する必要がある。	<p>○自転車の安全利用</p> <p>■交通安全教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携しながら、幅広い年代に切れ目なく交通安全教育を実施する必要がある。 <p>■自転車のルール・マナーに関する指導啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車利用マナーや通行ルールの周知をより一層充実させるため、出前講座や関係機関と連携した指導啓発活動を実施する。 <p>■損害賠償責任保険等への加入促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車事故が発生した場合に備えて、損害賠償責任保険等への加入促進を行う必要がある。 <p>■季節・天候に合わせた適切利用の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> 冬季期間の適切な自転車利用について、周知する必要がある。 <p>■通勤・通学ルートを中心とした安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車事故頻出箇所や通勤・通学ルートの安全点検を実施し、対策を検討する必要がある。
	放置自転車台数、撤去台数は近年減少している。	自転車利用マナー向上のため、自転車利用者だけでなく、自動車運転者、歩行者にも理解してもらうことが必要である。	
	徒歩で快適に移動できると思う人の割合は近年微増傾向にある。	現場状況を勘案したうえで、標識の必要性について検討する必要がある。	
	路面状況が危険な冬季期間での自転車利用がみられる。	地域のニーズを把握したうえで駐輪場の設置を検討する必要がある。	
	自転車利用マナー講話を学校等で実施している。	関係機関に自転車の配備を呼びかけ、緊急時や業務中の自転車利用を呼びかける必要がある。	
	シェアサイクル・レンタサイクル事業の利用者数は少ない。	自転車事故頻出箇所の点検を実施し、対策を講じる必要がある。	
	もりおか自転車マップを過去に作成している。	自転車の通行ルールについて、自転車利用者だけでなく、自動車運転者、歩行者にも理解してもらうことが必要である。	
	自転車利用促進に関する広報を過去に作成している。	利用マナー向上のため、自転車利用者だけでなく、自動車運転者、歩行者にも理解してもらうことが必要である。	
	市内の小中学校の通学路について関係機関が連携した安全点検を実施している。	引き続き放置自転車対策を行っていく必要がある。	
	一人あたりの二酸化炭素排出量は、運輸部門の占める割合が全国平均と比較して多い。	自転車利用の多い通勤・通学ルートの安全点検も実施する必要がある。	
交通環境 観光 環境保全	平日の通勤時及び休日の自動車分担率が高い。	自転車利用の多い通勤・通学ルートの安全点検も実施する必要がある。	<p>○自転車の活用推進</p> <p>■自転車通勤の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車通勤の促進を図ることで、健康増進や渋滞緩和、環境負荷の低減につなげる。 <p>■自転車活用推進に関する広報啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車を利用することによるメリットを周知するため、自転車の利用促進に関する広報啓発を行う必要がある。 <p>■貸し自転車事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> レンタサイクル、シェアサイクル事業の充実を図り、通勤や観光時等、様々な機会での自転車の活用を推進していく。 <p>■サイクルツーリズム等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の観光名所を経由できるサイクルルートを設定し、周知する。 既存のサイクリングルートをPRし、活用を図る。 <p>■日常業務での自転車利用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常業務中における移動の際に、積極的に自転車を利用するよう周知していく。
	市内の国・県道における混雑度は全国平均に比べ高い。	自転車利用の多い通勤・通学ルートの安全点検も実施する必要がある。	
	年間観光客入込数は近年増加傾向である。	シェアサイクル・レンタサイクル事業の充実、既存のサイクリングロードの活用を図ること、観光資源に触れる機会を創出し、街の魅力を市内外に発信する必要がある。	
	中心市街地の歩行者・自転車通行量は近年減少傾向である。	自転車利用の多い通勤・通学ルートの安全点検も実施する必要がある。	

施策の方向性